

経済・金融
フラッシュブラジル GDP(2023年1-3月期)
— 農業生産が好調で前期比 1.9%に加速

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

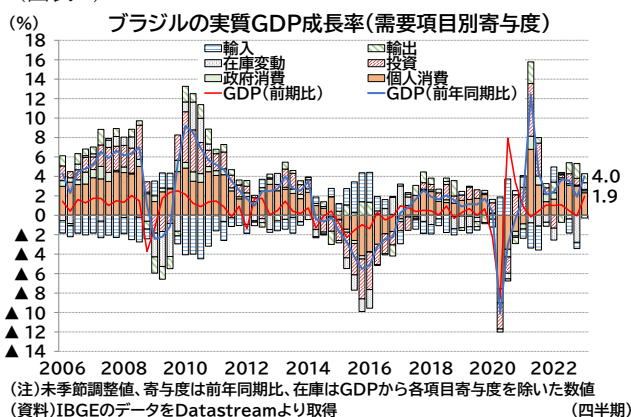
1. 結果の概要: 前期比 1.9%に加速

6月1日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

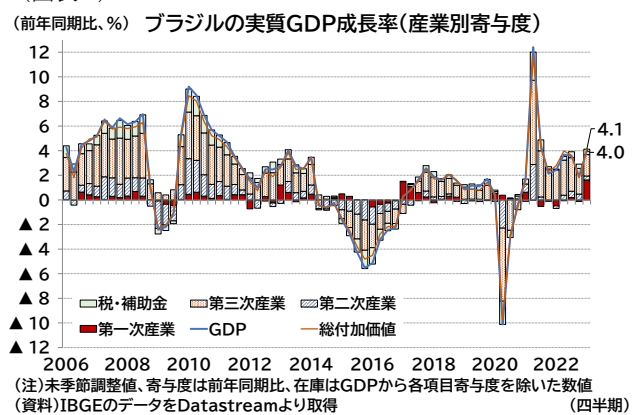
【実質GDP成長率（2023年1-3月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は4.0%、市場予想¹（3.1%）を上回り、前期（1.9%）から加速した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は1.9%、予想（1.2%）を上回り、前期（▲0.1%）からプラスに転じた。

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細: 第一次産業が大幅に拡大

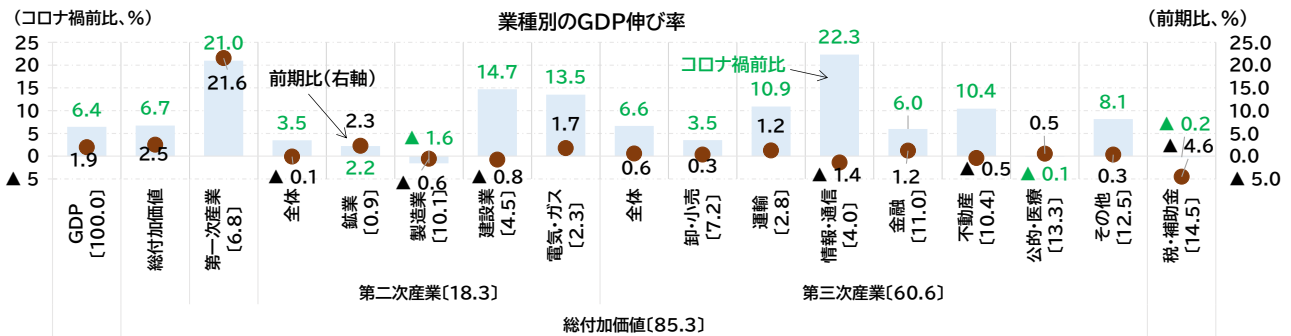
23年1-3月期の実質GDP伸び率は前期比1.9%（季節調整値、年率換算8.0%）で、10-12月期のマイナス成長（前期比▲0.1%、年率換算▲0.2%）からプラスに回帰した。GDP水準はコロナ禍前（19年10-12月期）と比較して6.4%となった（図表4・5）。

成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が0.2%（前期：0.4%）、政府消費が0.3%（前期：0.3%）、投資▲3.4%（前期：▲1.3%）、輸出が▲0.4%（前期：3.3%）、輸入が▲7.1%（前期：▲3.1%）となった。内需の中心である消費や投資は冴えない状況が続いているが、GDPの控除項目である輸入が大幅に落ち込んだことがGDP成長率を押し上げた形となった。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

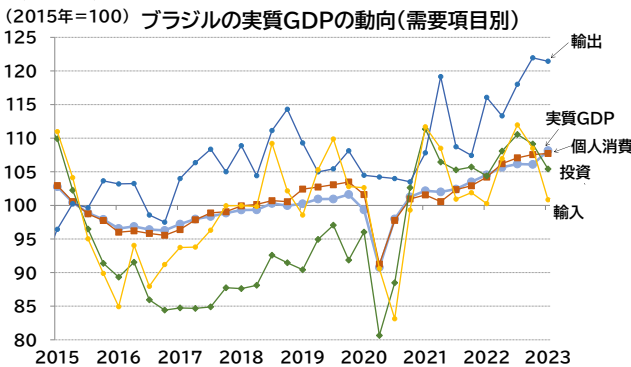
なお、コロナ禍前との対比では、個人消費が4.1%、政府消費が2.4%、投資が14.8%、輸出が12.3%、輸入▲1.9%だった。コロナ禍以降、投資や輸出が成長をけん引してきたが、ブラジルでは高インフレを受けて中銀が政策金利を22年8月にかけて13.75%まで引き上げた後、この高い水準で据え置いており、直近では投資の減速感が強くなっている（図表4）。

（図表3）



（注）カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値（データラベル）は黒が前期比、緑がコロナ禍前比の数値（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

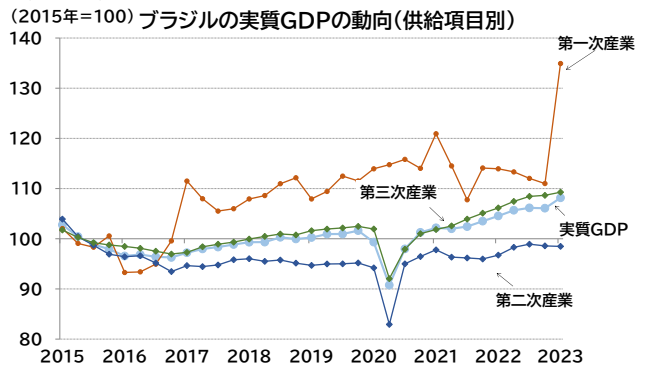
（図表4）



（注）季節調整系列の2015年を100として指数化（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（四半期）

（図表5）



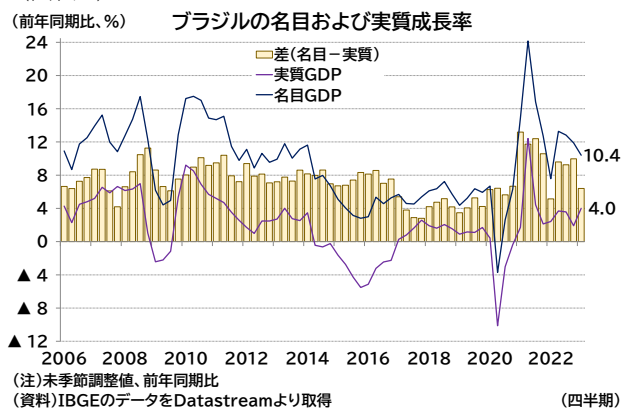
（注）季節調整系列の2015年を100として指数化（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（四半期）

産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると（図表3・5）、第一次産業は前期比21.6%（前期：▲0.9%）、第二次産業は同▲0.1%（前期：▲0.3%）、第三次産業は同0.6%（前期：0.2%）だった。大豆やトウモロコシなど主要農作物の収穫が好調で第一次産業が急拡大したことがGDPを押し上げた。一方、第二次産業は2四半期連続でのマイナス成長となった。より細かい業種では、第二次産業の製造業が前期比▲0.6%で3四半期連続のマイナス成長、建設業（▲0.8%）が2四半期連続のマイナス成長だった。第三次産業は情報・通信（▲1.4%）のマイナス幅が大きかったが、運輸（1.2%）や金融（1.2%）は高めの成長率を記録した。

23年1-3月期の名目成長率は前年同期比10.4%（前期：11.9%）となった。名目と実質成長率の差（デフレータに相当）は6.4%（前期：10.0%）と大幅に低下し、コロナ禍前の水準にかなり近づいた（図表6）。また、交易条件に関しては、1-3月期は輸出デフレータと輸入デフレータのいずれも下落するなかで、わずかに改善している。

（図表6）



（注）未季節調整値、前年同期比（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（四半期）

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。